

2007年10月31日

Vol.54

みみん



せんだい・みやぎNPOセンターの誕生日は、
1997年11月1日です。
この11月でまる10年になります。
それを記念して、10周年記念イベントを開催します。
そこで、このニュースレターもリニューアルしました。

【みみん】の題字は当センター正会員の
谷川俊太郎さんをお願いしました。

今回は、先日の総会での基調講演のダイジェスト、
昨今の当センターの事業紹介、新人スタッフの紹介、
理事会からのメッセージなどお届けしてまいります。
なお、次回からは各セクターのゲストを
お招きしてお話をうかがう、
巻頭インタビューなど予定しています。お楽しみに！

ジャズフェスの賑わいの中、 第9回通常総会終了。

9月8日土曜日。この日は、仙台の秋の風物詩としてお馴染みの“定禅寺ストリートジャズフェスティバル”（通称：ジャズフェス）の当日ということから、街なかには多くの人で賑わっていました。そのようななか、当センター「第9回通常総会」が開催されました。

司会の木村理事より議長の選任を行い、大滝代表理事のもと総会成立を確認後、議事録署名人を福原和淑さん、遠藤孝志さんの両名をお願いしました。

その後第1号議案「2006年度の事業報告と決算報告について」、第2号議案「2007年度の事業計画と予算案について」、第3号議案「理事・監事の選任について」は、すべて承認されました。第3号議案の新理事には、増子良一さんが選任されました。増子さんはイトス株式会社の代表取締役社長であり、当センターのとのおつきあいは、サポート資源提供システムの開発期に始まり、中古パソコンの提供プログラムにご協力いただいています。総会終了後、同会場にて市民フォーラム21・NPOセンター代表理事の後さんの記念講演が行なわれ、盛況のうちに終了いたしました。

なお、総会終了後、所轄庁、法務局、税務署への届出を9月中に完了しましたことをご報告いたします。

■目次

- P1…………… 第9回通常総会報告
- P2～3… 総会記念講演
『日本のNPOの10年をふりかえる』報告！
- P4～5… 今年度の事業紹介
- P6…………… 寄稿 10周年に寄せて 中村隆行さん
理事リレーコラム 加藤哲夫
- P7…………… 新スタッフ紹介
徒然ぶろぐ、お知らせ
- P8…………… 新規会員・継続会員
編集後記、連絡先等

「日本のNPOの10年をふりかえる」

—NPOは公共サービスを担えるか—

日時:2007年9月8日(土) 16:00~17:30

場所:仙台市市民活動サポートセンター

講師:後 房雄さん(市民フォーラム21・NPOセンター代表理事)

NPOのこれまでの10年を振り返り、これからのNPOのあり方を考えるにあたって、NPOにまつわる誤解と神話について触れ、NPOがさらに社会にインパクトを与える存在になるにはどうすればいいのか、明快なお話をいただきました。

■NPOをめぐる誤解と神話

この10年を振り返ると、NPOに非常に好意的な世論が続いてきました。NPOという言葉に対して、多くの人が素晴らしく良いイメージを持ちました。私達はNPOという言葉ができる前にも、活動に関わっていましたが、NPOという名前が広がると格段に活動がニュースとして取り上げられるようになりました。

その好意的な世論は、NPOの活動がしやすくなるという側面もありますが、逆に、期待が大きければ大きいほど、応えられないときの世論の反動は大きなものになるのです。現在、それらの期待だけでNPOが好意的に扱われる時期は終わりつつあり、NPOが社会にどのように役立つのかという、本当の実力が問われる時期に入ってきています。

レスター・サラモン氏は、1995年に執筆した論文で、当時のアメリカを中心としたNPOに「3つの神話」が蔓延り、この神話を一掃しないとNPOの将来はないという厳しい提言をしています。

[NPOをめぐる3つの神話]

1、NPOは「純粋な美德」を備えた組織という神話

NPOは、柔軟性や信頼性の高い理想的な組織だという神話です。実際には、他の組織同様に官僚化、硬直化の危険があります。その危険からNPOは逃れられると期待しているとかえって防御が甘くなるので、マネジメントや経営という意識を持ち、危険を上手く回避しながら努力をしていくことが課題なのです。

2、「真のNPOは、寄付とボランティアに頼って活動するべきだ」「公的資金を受け取るべきではない」という神話

これをサラモン氏は「ボランタリズムの神話」と言っています。イギリス・アメリカのNPOの財源構成を挙げますと、1番多いの

は事業収入で50%~55%程度です。寄付は自由度の高い資金であり重要ですが、量的には1割程度です。その他の残り35%~40%は公的資金になります。

これから見ても公的資金はNPOにとっては決定的に重要です。原理的に言ってNPOが公的資金を受け取って公的な仕事を行う事はむしろ当然のことで、問題は公的資金を受け取る事で、行政との間に従属関係が出来てしまうことです。その危険をいかに回避し、組織の自立性を維持するかということを考えなくてはならないのです。

色々な制度の設計や具体的な手続手管も含めてNPO側が正面から議論すべき事です。よくない事だと遠ざけて問題に取り組みないのではなく、きちんとした考えをもって危険も承知で踏み出すということが重要なのです。

3、世界のほとんどの地域において、NPOはまったく新たに出現したものであり、それゆえ白紙の上で活動できると考えられている「無原罪懐胎」の神話

日本では、NPOはこの10年で新しく出来たと考えられています。しかし、サラモン氏が言うように、どこの国でもそれに近い伝統的組織があります。それらは問題点もあるが良いところもあり、果たしてきた役割もあります。

日本でも地縁組織や各種公益法人などは非常に重要なNPOなのです。それらと新しいNPOは違うという事をこの10年は言うてきましたが、これからは違うということもふまえ、もつと広い意味で新旧のNPOが合流するような関係を築いていくことが求められると思います。

■NPOの自立とは何か

NPOの自立とは何かという事をサラモン氏の文章を引用して説明します。

『結局のところNPOセクターが独立しているという考えは誤解を招きかねない。財政的にいえば、NPOセクターは、公的資源でなければ民間資源に、ほとんど不可避免的に依存する。そして歴史的にみれば、民間資金はどのような政府資金の場合ともまったく同じほど厄介で危険な縛りを伴っていた。』

つまり、民間の資源ほうが安全だということはないのです。たとえ、巨額の寄付者の趣味を無視できるでしょうか。NPOは公的資金か民間の資金かどちらかに頼る存在であり、まったく頼らないという選択肢はないのです。外部資金に依存できるという事はNPOにとってメリットであり、放棄するのはNPOのアイデンティティを放棄する事になるのです。外部の資金に依存できるというのがNPOの本質であり、また強味でもあり弱味でもあるのです。そして、資金は外部に依存しながら、どうやったら意思決定の自立性を堅持するかということがNPO経営の一番難題で面白いところでもあります。そして、これはNPOにとっての原理的な課題であると言えます。



■これからのNPOと行政の関わり方について

高度経済成長期までは、社会的な問題解決は政府・行政が取り組むものだと捉えられてきました。しかし、現在は企業やNPOが成長し、そしてそれらのセクターがどのような役割でどの程度の比重で問題解決に取り組む社会が良いのか、それが課題になっているのです。

公的事業は「企画・立案・決定・実施・評価(Plan-Do-Check-Action)」に分ける事ができます。最近では成果を上げたかという「評価」が重視されています。「決定」というのは政府・行政が行うもので、それ以外の部分、たとえば実施は、公的資金を使う場合でも、きちんと契約どおりに行ってくれるのであれば民間でも構わないのです。ですから、行政側が成果目標を明確に設定してくれれば、NPO側は実施過程においてNPOらしさを維持しながら、なおかつ行政とは違う特色を出して+αの実績をあげられるような仕事をすることができます。成果を縛って、過程を自由にする契約方式を「パフォーマンスコントラクト」＝業績契約といえます。

しかし、NPOというのは成果至上主義ではなく活動至上主義になりがちです。素晴らしい活動をしているだけで満足しているところがあり、実際に成果が上がっているかどうかにはあまり関心がありません。今後は、事業をやるにあたっての成果志向がNPOにも求められます。その中で「協働」ということにも触れなくてはならないのですが、一部の市民が税金で行う事業の企画、立案において行政と対等な決定権を持つことはありえません。協働におけるNPOと行政の「対等」というキーワードは実は迷信なのです。

いたずらに理念的協働論を叫ぶのではなく、公的資金に関するアカウンタビリティを踏まえた上で、NPOの自立性、特色を活かせる事業委託契約の設計や運用方法を考えることが現在の重要課題です。

■後 房雄さんプロフィール

1954年生まれ。京都大学法学部卒業。専門は、政治学、行政学。福祉国家と非営利セクター、自治体改革論、日伊現代政治などを研究テーマとする。現在、名古屋大学大学院法学研究科教授、日本行政学会理事、日本NPO学会理事、市民フォーラム21・NPOセンター代表理事。

せんだい・みやぎNPOセンター 今年度 事業紹介

CSR

NEW

今年の新事業であるCSR(※)事業では、情報調査とセミナーの2つを柱にしています。情報調査事業では、東証1部上場企業が発行しているCSR報告書の情報公開度を、48の項目に照らし合わせて調査しました。セミナー事業では、CSRに取り組んでいる県内の中小企業にインタビューを行い、企業向けのセミナーでは事例発表とパネルディスカッションを開催しました。NPO向けのセミナーでは、ISO26000についての紹介と今後、企業とNPOがどのようにCSRに関わっていけば良いかを考える、地域のNPOと企業によるパネルディスカッションを開催しました。

この事業は、全国各地で同様の取り組みが行なわれました。最終的に、CSR報告書の調査結果やセミナー参加企業の報告は、日本財団が運営する公益コミュニティサイト「CANPAN」に掲載され、市民に公開されます。

セミナーでは今までつながりの無かった地元企業の方にも多数おこしいただきました。当センターでは、今まで以上に地元企業との連携を強めていくためにも、CSRをテーマとした取り組みを積極的に行なう必要性を感じました。今後の展開にご期待下さい！
※CSR(Corporate Social Responsibility)とは、日本語では「企業の社会的責任」と訳されます。企業も営利活動だけでなく、地域社会に責任を持つべきだという考え方です。

せんだいCARES 2007

私たちが暮らすまちでは、生活の中で気になることや困りごとを解決しようと、たくさんの方々が地域をケア(=お世話)しています。これらの頑張るNPOと一緒に市民や企業、行政も参加して仙台のまちを盛り上げていこうというのが「せんだいCARES」です。日頃あまりNPOの活動に触れることがない方も、気軽にその

活動へ参加できるキャンペーンです。

今年で5回目となるせんだいCARESには40団体が参加し、10月27日(土)～12月1日(土)のキャンペーン期間中、子ども・環境・福祉・まちづくりなど様々な分野で活動をするNPOがイベントを行ないます。

～イチオシ！3つの企画～

- ①10月27日(土)「杜の都のごみゼロ作戦」(会場:定禅寺通り周辺)
- ②11月11日(日)「まるごとサポセン」(会場:仙台市市民活動サポートセンター)サポセンを1日貸しきり、館内のあちこちでNPOがイベントを開催します。カフェスペースもオープン！
- ③11月13日(火)～18日(日)「いきいきNPOウィーク」(会場:東北電力グリーンプラザ・アクアホール)NPOのブース/ステージ発表のほか、企業による社会貢献の取り組みも紹介。最新情報は、せんだいCARESホームページをご覧ください。

http://blog.canpan.info/sendai_cares/

(主催:せんだいCARES実行委員会、共催:仙台市、当センター)

みんなファンド

今年度は、みやぎNPO夢ファンドから全11団体に450万円、ろうきん地域貢献ファンドからは全12団体に1,532,347円をそれぞれNPO・市民活動団体へ提供し、みんな(本体)ファンドは5団体・65万円程度、ふくふくファンドは5団体・50万円程度の提供を予定しています。

また、今年から、助成決定団体への説明会開催、みんな(本体)ファンドはコンサルティング付きの導入、みんなファンド事務局ブログによる情報発信など、資金だけでなく団体とのコミュニケーションを通じていろいろな支援に取り組んでいます

「東北ろうきんの

NPOパートナーシップ制度創設支援」 NEW

3月からの取り組みに、東北労働金庫のCSRへの取り組みの一環として「NPOパートナーシップ制度」の創設支援があります。東北6県の労働金庫が各地のNPO支援センターと協力して、NPOでのボランティア体験をマッチングするプログラムです。そのため当センターが呼びかけ、事務局的な支援をして、東北6県の支援センターの皆さんに定期的に集まっていただき、各地の取り組みを進める支援を行なっています。また本県においても、6つのNPOの協力を得て、10/9にはボランティアセミナーを開催しました。NPOからは、短期間のボランティア体験プログラムを提供いただき、希望者とのマッチングを進めています。まだ、始まったばかりで、年々成長させていけたらいいなという思いで取り組んでいます。また、この事業のおかげで、東北各地の支援センターの皆さんと、いろいろな取り組みについて意見交換する機会が増えました。東北のネットワーク形成にも役立っています。

(主催:東北労働金庫)

児童館とNPOをつなぐプロジェクト

NEW

住友生命の100周年記念事業として、本プロジェクトは金沢、福岡、仙台の3都市で展開されています。各都市で2つの児童館、合計6児童館で子どもたちとNPOが、あるテーマに沿って関わりを持ち始めています。

仙台では、通町児童館と東四郎丸児童館で各5回の事業が展開されています。通町児童館では、宮城のお米にこだわった食育プログラム「ばくばくプロジェクト」。東四郎丸児童館では、地域の人と人を結びながら地域文化の創造に取り組むプロジェクトが展開されています。詳細は、HPをご覧ください。

<http://www.npo-dondoko.net/sendai/>

(主催:通町児童館、東四郎丸児童館、共催:当センター)

仙台市市民活動サポートセンター

■シアター事業 **NEW**

「シアターPRのためのタイアップ企画」

市民活動シアターは、NPOの活動や文化芸術活動の創造・発信の場として、2006年9月、サポセンに誕生しました。

今年は、より多くの皆さまに、シアターの魅力や可能性を知っていただく機会として、演劇、アートなどの第一線で活躍している4人の方々をお招きし、タイアップ企画を実施します。

シアターは、自由度の高い平土間スペースとなっており、コンサート、演劇、上映会、シンポジウム、ダンスなどジャンルを超えて、幅広く利用できるスペースです。そこで、タイアップ企画では4名の異なる分野で活躍しているゲストの方々に、11月～2月までの間、演劇からアート展、ワークショップとシアターの新たな魅力を引き出すような幅広い内容のプログラムを企画していただきました。

ジャンルも内容も異なる4人のゲストが創り出す企画を、ワクワクするときめきとともに皆さまお届けします。ぜひ、新たなシアターとの出会いを体験しに来てください！

■誘導・啓発事業「出前サポセン」 **NEW**

この事業は、これまで仙台の中心部でNPOや市民活動団体と市民をつないできたサポセンが、地域の人々と地域で活動している団体をつなぐため、仙台市内の5つの市民センターとコラボレーションで行うのが「出前サポセン」です。

内容は、①市民活動を知ってもらうミニ講座「NPOいろは塾」の開催、②地域で活動する団体の紹介、市民活動に関する情報提供、サポートセンターの機能やサービスを紹介、地域の市民と団体の交流・情報交換などをする「さぼせんひろば」の開催です。

沖野市民センターを皮切りに、鶴ヶ谷、長命ヶ丘、折立、中田の各市民センターにおじゃましますので、「さぼせんひろば」にぜひ遊びに来てください。

■ネットワーク推進事業 **NEW**

「協働ナビゲーションフォーラム」

近年、全国で多くの協働事業が実施されています。ここ数年は協働の取り組みへの認知が深まりましたが、最近では実施上での課題も明らかになりつつあります。このフォーラムはその課題をみつめ、より良い協働環境を築くために開催されました。まず「協働環境を知り、使いこなす」と題し、当センターの加藤哲夫が講演。次に「もっとも知りたい、事業費積算のノウハウ全公開」では(特活)ボランティアネイバーズの馬場英朗氏を迎えました。最後に参加者間で情報交換をし、今後の協働のあり方について気付きを得たフォーラムとなりました。

仙台市シニア活動支援センター **NEW**

7月1日、市民活動サポートセンターの3階に仙台市シニア活動支援センターがオープンしました。

主に、定年を意識し始める50歳代後半以降のシニア世代の方を対象に、地域や社会の課題解決のために行う活動や新たな事業を起こすなどのチャレンジを応援する総合窓口です。

真壁、小林、青木がお待ちしております！（紅邑、黒澤にも時々会えるかも?!）

主な支援メニュー

●シニア活動の相談

①一般相談

シニア活動に関する幅広い相談を、窓口または電話でセンタースタッフに対応します。予約は必要ありません。

②専門相談

シニアの活動や、定年退職後のライフデザインづくりに関する相談など、毎回さまざまなテーマで専門相談員が対応します。あらかじめ予約が必要です。毎月第2土曜日・第4木曜日に開催しています。

●シニア情報の提供

市民活動団体の活動事例やイベント情報、定年退職後のライフデザインづくりに必要な情報、起業情報などを提供します。

●シニアサロンの開催

市民活動や起業、地域活動などに必要なことを学び、体験し、交流できるサロンです。毎月1回さまざまなテーマで開催します。申込みが必要です。

※10月～12月の専門相談とシニアサロンの予定は、同封したチラシをご覧ください。

名取市市民活動支援センター

■相談員派遣業務 **NEW**

2006年8月1日に名取駅から徒歩7～8分のところに「市民活動支援センター」がオープンしました。初年度より当センターでは、相談員の派遣業務を受託しており、毎週土曜日にスタッフ1名が通っています。今年度は、伊藤、本田、青木が担当しています。これまでに地元を拠点に活動しているNPOの運営面での相談や、これから活動を始めようとしている方々への立ち上げ相談などがありました。また11月17日にはマネジメント講座の開催や2月23日に予定している交流会の企画協力も行っています。



●全国の支援センターから

せんだい・みやぎNPOセンター設立10周年に寄せて

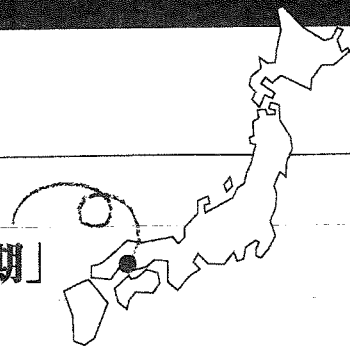
「原点に帰って、その役割を問い直す時期」

(特活)ひろしまNPOセンター 常務理事・中村隆行さん

1995年から3年間、日本財団の助成を受け、奈良・大阪・神戸・仙台・広島と5地域で連携して「地域に根ざした市民活動の支援システム形成に関する調査研究」に参画した。そして、それを契機に、1997年、地方としては全国でも早く、仙台と広島に、NPOセンターが立ち上がった。早いもので、それから10年。せんだい・みやぎNPOセンターとひろしまNPOセンターともに、10周年を迎えることができた。

「ひと、情報、場所、資金、運営力」。団体が抱える課題はここ10年変わらない。部分的に緒に付いたにしかすぎないのかもしれない。10年前とは確実に社会状況が変わった。NPOの活躍に期待が寄せられる。多彩で多様な市民の活動が各地に広がっている。10年が一つの区切りなら、中間支援組織として、原点に帰って、その役割を問い直す時期なのかもしれない。

地方のNPO支援センターとしてその牽引役として頑張ってきた「せんだい・みやぎNPOセンター」の皆さんの活躍にエールを送るとともに、今後も先駆的な取り組みで飛躍されることを期待しています。



●理事リレーコラム

「私の市民活動27年」 加藤 哲夫

「私の市民活動10年」というお題だが、1981年に出版社カタツムリ社の最初の本を出して、同時に仙台の市民活動シーンに颯爽と登場して、既に27年目である。その間私は31歳の颯爽とした青年から58歳の頭の白いただのおじさんになった。20歳の頃はとて30歳を過ぎるまで生きているとは思えなかったが、馬齢を重ねて今のところ死なずに生きている。とはいえ、友人知人同志の多数は既に鬼籍に入り、こちらの片足も●箱に入りかねない。

そんな中、この10年、自分でも良くやってきたと思うが、誰も誉めないで自分で誉めよう。「良くやった！感動した！」ん？

この10年の私の仕事は、せんだい・みやぎNPOセンターを地域におけるNPO支援組織として成長させることであった。それは一定程度成功したと言えるだろう。本当はもっといろいろとしたいこと、しなければならぬと思うことはある。しかし、糸中がもっとも良い成功の原動力であると知る私は、他のことは捨てて、この仕事に集中してきた。そのことを後悔はしていない。

あわせてこの10年、5冊の単著と15冊を越す共著を上梓することができた。これも何か書いて表現したいという欲望の大きな私にとって望外の喜びである。

20歳のときに死にそこなってから、いつ死んでもいいように生きて決めて37年になる。こんな私でも生きていることに意味があると少しは思えるようになってきた。まだまだ小僧、死ぬまで生きるぞ。

徒然ぶろぐ

今回は、みんなブログ
(<http://blog.canpan.info/minmin/>)
より、編集班・三井がセレクトした
気になる記事を紹介します！

■仇討ちって？ [2007年09月11日(火)]

先日総会のときに、会員さんからお土産をいただきました。

Aさんからは巨峰とマスカット！季節の味を堪能させていただきました。

そして、Kさんが持ってきてくれたパッケージにはなんと「仇討ちまんじゅう」！？とあるではありませんか。。。思わずしばし固まってしまいましたが・・・(続きはブログをご覧ください)

<三井の声>

どうも食べ物となると夢中になってしまう傾向がある三井です。それにしても「仇討ちでまんじゅう」とは・・・

2006年10月～2007年9月までに入社した新スタッフより、自己紹介と抱負を語っていただきました。

■新スタッフ紹介

とよいずみ あきこ
豊泉 昭子 (2006年10月入社)

自分もまだまだ新人だと思っていたら、新しいスタッフが入ってきたので、もう新人とは言いがなくなりました。今までは、先輩スタッフにわからない事など質問してきましたが、これからは、聞かれる側になると思うと身も引き締まります。質問されてもズバリと答えられるスタッフになりたいと思います。(SC常勤)

みつい まさる
三井 克 (2007年4月入社)

4月からサポセンにお世話になっています。6ヶ月ほどたつのに未だ入口付近でまごまごして利用者の皆様にご迷惑をお掛けしています。一日も早く「頼れるおじさん」になりたいと思っています。よろしくお願いたします。(SC非常勤)

ほんま あい
本間 藍 (2007年9月入社)

はじめまして。本間藍と申します。9月3日よりサポートセンターの常勤スタッフとして働いています。常に学び、努力しながら、楽しく仕事に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。(SC常勤)

かさい じゅんこ
葛西 淳子 (2007年9月入社)

今回縁あって、非常勤スタッフとして働くことになりました。今までの経験をいかしながら、新たな勉強の始まりです。現在、夫と二人暮らし。息子たちは親元を離れ、「子は鎧」ならず、愛犬ポチが間を取り持ってくれています。(SC非常勤)

たうが あきこ
田 亜紀子 (2007年9月入社)

今年の7月に生まれ故郷の仙台にUターンで戻ってきました。ここでの仕事を通して、地元仙台、宮城県の文化や環境などを活気づけていけたらと思っています。人も自然もハッピーでいられる街になれるように、市民活動を応援する縁の下の力持ちになりたいと思っています。(大町非常勤)

■お知らせ

せんだいCARES2007

① まるごとサポセン

日時:11月11日(日)9:30～17:30
 場所:仙台市市民活動サポートセンター
 サポセンが終日せんだいCARESの楽しい催しものでいっぱいになります!

② いきいきNPOウィーク

日時:11月13日(火)～18日(日)【最終日は16時まで】
 場所:東北電力グリーンプラザ アクアホール
 NPO活動紹介と企業の社会貢献事業報告会を開催します。

加藤哲夫のNPO経営相談

日時:11月14日(水)13:00～17:00
 12月19日(水)13:00～17:00
 場所:せんだい・みやぎNPOセンター
 相談料:2,500円(1時間単位、会員は500円引き)
 ※予約制です。まずはお電話を!

児童館プロジェクト

児童館とNPOを結び付けるプロジェクトとして、仙台市内の2つの児童館で連続ワークショップを開催しています。

■通町児童館

11月10日(土)11:00～「宮城の郷土料理を食べよう」
 12月8日(土)11:00～「新米の食べくらべをしましょう」
 1月19日(土)11:00～「まとめの会」

■東四郎丸児童館

11月17日(土)10:00～「わたしたちの街を知ろう」

■ガイドボランティアの達人に話を聞きました!

[2007年09月25日(火)]

シニア活動支援センターが開所したのが7/1のこと。この日、記念講演に参加した方々のアンケートで関心の高かったのがシニアサロン「ガイドボランティアの達人に聞こう!」でした。嬉しいことですね。ゲストの斎藤光巧さん(仙台・国見おたから研究会 代表)と高橋英夫さん(グループ GOZAIN代表)のお話に共通していたのは、何よりも楽しみながらやっていくこと。そして、それぞれにおもてなしの心をもって接していらっしゃる姿勢が伝わってきました。

<三井の声>

異議なし!おもてなしって簡単に言うけれどこれが結構難しいことなのです。



サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成19年度会員(敬称略・順不同、2007年7月1日～9月30日)

(正会員)青木ユカリ、(特活)あかねグループ、浅見紀夫、アップル環境ネットワーク、荒井勝子、(特活)生き生きネットワーク、(特活)イコールネット仙台、(特活)いしのまきNPOセンター、(特活)いわてNPO-NETサポート、内海裕一、AKK仙台、エルネット仙台、岡田真秀、片倉玄、片桐和紀、川崎あや、(特活)起業支援ネット、北尚登、キャブネットみやぎ、くりこま高原自然学校、(特活)グループゆう、(特活)子育てネットワークバルボンさん、木幡勝幸、小林正夫、(特活)蔵王のブナと水を守る会、佐藤令子、CILたすけっと、(特活)市民フォーラム21・NPOセンター、(特活)住民互助福祉団体ささえ愛山元、白川由利枝、(特活)すくすく保育研究所、鈴木格、(特活)せんだい杜の子ども劇場、(特活)ソキウスせんだい、高橋幸夫、田代久美、谷川俊太郎、(特活)ちば市民活動市民事業サポートクラブ、(特活)でんでん宮城いきいきネットワーク、東北HIVコミュニケーションズ、(特活)東北マンション管理組合連合会、中津涼子、日本労働組合総連合会宮城県連合会、沼倉雅枝、(特活)ハーモニーハウス、長谷川公一、ハリウコミュニケーションズ(株)、(株)東日本放送、人と組織と地球のための国際研究所、日向則子、藤原範典、紅邑晶子、(特活)ほっとあい、増子良一、(特活)まちづくり政策フォーラム、(特活)MIYAGI子どもネットワーク、(特活)ミヤギユースセンター、(特活)みやぎ身体障害者サポートクラブ、三好彰、(特活)麦の会、八木健、八木充幸、(特活)やまがた育児サークルランド、(特活)山形の公益活動を応援する会・アミル、山田晴義、(特活)ゆうあんどあい、横須賀和江、渡邊兼光、渡辺祥子、渡辺博之

(準会員)愛知絢子、今田忠、上田由美、上野裕子、大泉太由子、岡崎トミ子、沖永哲哉、葛西淳子、木須八重子、熊谷龍一、クリーンアップ蒲生、心書室、小島妙子、小浜耕治、斎藤実、齋藤衣代、(特活)塩釜市体育協会、(特活)静岡県東部バレット市民活動ネットワーク、(特活)白石うぐいす会、鈴木素雄、鈴木典男、須藤達也、世古一穂、(社団)仙台青年会議所、高鷹厚、高橋亘、高橋英子、高松市ボランティア・市民活動センター、瀧澤陽子、田中聡子、(特活)都市デザインワークス、中務恵美、(特活)日本総合空手道連盟、(社団)日本損害保険協会、日本たばこ産業(株)、早坂恵美、早坂毅、(有)平野印刷所、(特活)ふくしまNPOネットワークセンター、ほけっと・はうす、松尾敏行、宮野学、村山浩之、(特活)杜の伝言板ゆるる、野外ぐるりん友の会、(特活)友愛さくら、遊佐さゆり、(特活)WACまごころサービスみやぎ

■企業・団体協力(五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

連絡先・振込み先など

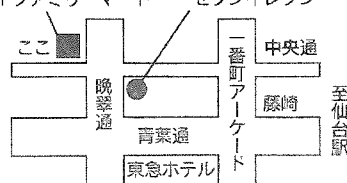
特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail:minmin@minmin.org HP:http://www.minmin.org/

▼会費・寄付のお振り込みは、こちらへ！

郵便振替:02260-3-16325
仙台銀行 中央通支店 普通 4094031
加入者:特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミリーマート セブンイレブン
編集長:内川奈津子
編集班:紅邑晶子、三井克
発行日:2007年10月31日
デザイン:氏冢朗



岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分

編 | 集 | 後 | 記 |

1年ぶりの復活となった事務局通信ですが、いかがだったでしょうか?突然編集長を任命され、ここ数ヶ月は悪戦苦闘の日々を過ごしていました。1号発行することに、少しずつ成長していきたいと思います。以後よろしくお願いします。(ウチカワ)

10周年記念でお渡しする記念誌と2本の日本酒。ラベルの題字の一本は谷川俊太郎さんの【みんな】。もう1本は藤井黎元仙台市長による【協働】です。味わい深いお酒になりそうです。(紅邑)

念願かなったジャズフェス実行委員としての初仕事を無事に終えることが出来た喜びもつかの間、今度はみんなの編集委員になりました。時間に追いかけるながらの毎日ですが初めての体験、ワクワク?しています。(三井)